

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大原学園 昂大原自動車大学校	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市八幡東区	構造	SRC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	800 人
気候区分		年間使用時間	3,600 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年8月4日
敷地面積	10,535 m ²	作成者	渡邊 晋也
建築面積	827 m ²	確認日	2014年8月7日
延床面積	2,442 m ²	確認者	安田 健太郎

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 93%
③上記+②以外の 93%
④上記+ 93%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	授業、休憩、食事、執務などの様々な場面において快適な建物であり、教室のレイアウト変更などに柔軟に対応できる建物であること。また、省エネ機器を積極的に採用することで、環境負荷低減への配慮も行う建物を目指した。	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 大開口窓による昼光利用の積極的採用。 集中リモコンによる照明制御。 F☆☆☆☆の建築材料を積極的に採用。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の維持管理に配慮。 更新間隔の長い配管材料の採用。 	敷地外周に沿って植栽されている既存樹木をなるべく残した形にし、敷地外からの視線カット、遮音、防風に役立てている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 高効率室外機、全熱交換器の採用。 初期照度補正機能付き照明器具の採用。 	<ul style="list-style-type: none"> 省水型機器の採用。 有害物質を含まない材料の積極的採用。 ODP=0の断熱パネルを外壁に採用。 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場、駐輪場を始め、学生送迎用マイクロバス置場の配置に配慮。 屋外照明計画の配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される